

しんぎ かいぎ けっか
審議（会議）結果

しんぎかいとうめいしょう 審議会等名称	だい かいかながわけんしょうがいしゃせさくしんぎかいしょうがいとうじしゃぶかい 第 6 回神奈川県障害者施策審議会障害当事者部会
かいさいにちじ 開催日時	れいわ ねん がつ にち かようび じ ふん じ ふん 令和 7 年 11 月 18 日（火曜日） 13 時 30 分から 15 時 30 分まで
かいさいばしょ 開催場所	かながわけんちやうしんちやうしゃ かい だい かいぎしつ さんか あ 神奈川県庁新庁舎 5 階 第 5 会議室（オンライン参加有り）
しゅっせきしゃ 出席者	ぶかいちやう ないとういいん い か めいぼじゆん おやまいいん こにしいいん こやまいいん 【部会長】内藤委員、（以下名簿順）尾山委員、小西委員、小山委員、 さるわたりいいん しもじやういいん せきいいん たかのいいん たかはしいいん た が や いいん 猿渡委員、下条委員、関委員、高野委員、高橋委員、多賀谷委員、 ならざきいいん はんざわいいん ゆみやいいん けい にん 奈良崎委員、榛澤委員、弓矢委員（計 13 人）
じかいかいさいよていび 次回開催予定日	みてい 未定
しょうぞくめい たんとうしゃめい 所属名、担当者名	しょうがいふくしかきかく かとう 障害福祉課企画グループ 加藤
といあわ さき 問合せ先	でんわ 電話（045）285 - 0528 ファクシミリ（045）201 - 2051
けいさいけいしき 掲載形式	ぎじろく 議事録
しんぎけいか 審議経過	い か 以下のとおり

ぎ だい
《議 題》

- (1) だれもが参加しやすい「e スポーツ」について
- (2) 障がい当事者の視点から「働くこと」を考える

ほう こく
《報 告》

- (1) グループホームや施設で生活する方のためのノートについて
- (2) 「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～」
の見直しについて

はいふしりよう
《配布資料》

- 資料 1：だれもが参加しやすい「e スポーツ」について
- 資料 2：障がい当事者の視点から「働くこと」を考える
- 報告資料 1：グループホームや施設で生活する方のためのノートについて
- 報告資料 2：「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を
目指して～」の見直しについて

じむきよく しんこう
【事務局による進行】

- ・ 首藤副知事挨拶
- ・ 事務連絡

【内藤部会長による進行】

(内藤部会長)

内藤でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。皆様が活発に御自分の意見を表明できるよう、有意義な会となるように、御協力をお願いいたします。

それでは、早速議事に入ります。本日は議題が2つ、報告が2つでございます。議題と報告の順番、時間の目安は、次第のとおりでございます。それでは、次第2の(1)、1つ目の議題でございますが、「誰もが参加しやすいeスポーツについて」、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

資料1に基づいて説明

(内藤部会長)

ありがとうございました。こういうことをしたいという御意見ございましたらどうぞ。猿渡委員、よろしくお願ひします。

(猿渡委員)

猿渡です。今日ここにロボットを持ってきたのですが、これはシャープが出している「ロボホン」というものです。これはeスポーツではないのですが、ここにもう1体いまして、2体を親子設定すると離れている親御さんと会話ができたり、あと「ポケとも」というのが今度ですが、それはシャープの仲間同士でお話ができたりとか、そういうものがあります。

それでeスポーツなんですけれども、私はボッチャをやっていて、ボッチャのeスポーツ版があります。視覚障がいの方とかだとちょっと難しいかもしれないんですけど、介助者が指示を出して、どこにボールを飛ばしたらいいかという指示ができればできるスポーツです。そういうものがあったり、あとは先ほどSwitchの大きいコントローラーがあったと思うんですが、テクノツールというところがSwitchの大きいコントローラーや大きいボタンを作っています。例えば、呼吸器ユーザーが呼吸スイッチとかを使うものがあればできるのかなと思います。

一般に作られてるもののわかりやすい版というのができるとよいと思います。私もときどき参加しますが、普通のボッチャよりもeスポーツのボッチャの方が考えることがあって、逆に面白いというものもあります。

あとは、本当に皆さんがやりたいと思うものを、ドローンとかもいろいろありますので、そういった装具をするというのも将来あるのかなと思いますし、なかなかどういうコント

ローラーがあるかって知る機会がないので、できれば国際福祉機器展（H．C．R）みたいなものを神奈川県でも開催してもらえるとありがたいと思います。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございました。小西委員から手が挙がっております。よろしくお願いします。

こにししいん
(小西委員)

すみません、聞きたいんですけど、場所はどこでやるんですか。e スポーツというのは場所を取ります。障がい者にとって、場所は広い方がよいと思います。

そして、対戦相手はどこから対戦するのですか。よろしくお願いします。

じむきょく
(事務局)

まずe スポーツですけれども、「大会」とイメージしてしまうと、どうしてもおっしゃるようにイベントの場所というのは体育館であったり、そしてそこにゲームができるコンピューターを並べるというイメージがございいますので、もちろん大会やイベントとなりますとそれが開催されている場所に行く必要が出てきます。

ところが、e スポーツの「e」というのは、いわゆる「インターネット」でございいますので、基本的に対戦したり、競争したり、協力したりということに関しては、御家庭でそのままプレイする、そこで競うことができるということになります。特に、e スポーツの大会の予選というのは大体オンラインなのです。つまり、自宅から参加をするということになります。それはやはり場所を借りる方が逆にコストがかかる、準備をする方も人出が多いということで、御自宅のパソコンや病院からインターネットに接続をして、対戦相手をマッチングするといふのですけれども、対戦相手を自動でコンピューターが振り分けたりして、同じぐらいの技量の人と競わせるというようなことをやっているゲームもございいます。

ですので、場所についてはイベント的な全国大会とか世界大会でいうと、スタジアムや体育館のような場所で行うこともありますが、実はいろいろな大会がオンラインのみで自宅からアクセスする形で行われているのが現状でございいます。

また、先ほど今年度の取組で「ともいきゆうえんち」について御説明しました。茅ヶ崎市の体育館で開かれ、その一部を借りて実施いたしました。その際は車椅子の方ですとか、ベッドに寝たまま参加された方もいらっしゃいます。また、もう1つの「かながわみんなのスポーツフェスティバル」というのも、県立のスポーツセンターや体育館で行いましたので、わりと広い場所を使って実施いたしました。あともう1つ、対戦ですけれども、対戦はその場にいらした方同士の対戦ですとか、あとは障がい者のe スポーツプレーヤ

一の方をお呼びして、その方と対戦するといった、そういった体験をしていただいております。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございました。高橋委員、よろしくお願いいたします。

たかはしいん
(高橋委員)

高橋です。ご協力いつもありがとうございます。私は全盲ろう者です。ですから、eスポーツをやった経験がありません。以前、少し見えていた時にeスポーツをやった経験があります。例えば、スーパーマリオゲームであったり、画面を見てゲームをすることができました。けれども視力が落ちてしまっただけからは、今は全くすることができません。

触ること、触れてできるようなゲームがあれば願っています。振動を使うようなeスポーツがあれば願っています。また、もぐらたたきゲーム、出てきたものが手に触れてわかれば、もぐらたたきゲームもできるのではないかと考えています。後ろから支援者の方に指示をいただいて、見えないので手で触って打っていく。そういうことができれば、一人では無理な場合でも支援者に助けていただきながらできるのではないかと考えています。後ろから支援者の方に指示をいただいて、方向を教えていただきながら実際に振動を触って、自分でももぐらが出てきているのを体感しながらたたき。そういうサポートをしていただきながら、実際に自分でも体感しながら、そういったものがあれば目が見えなくても盲ろう者でもできるのではないかと考えています。

たたいたら震える、たたいたということが成功しているかどうかということも触れてわかるというような技術があれば、テクニカルな進化があればいいなと思っています。人との対戦のゲームというのは、手で触ることによって、パネルを触ることによって、盲ろう者が楽しめるゲームをぜひ作っていただきたいと願っています。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございました。猿渡委員、よろしくお願いいたします。

さるわたりいん
(猿渡委員)

eスポーツの補足なんですけど、桃太郎電鉄2に相模原市がやっと市長のおかげで入って、例えば桃太郎電鉄だったら電車が来たところに点字をあわせたり、あと振動とか、アクセシビリティで設定できるようにすればできるのかなという気はします。

そういう関わりとか、あと都立の支援学校だと学校同士で結構eスポーツをやってるんですよね。なので、教室1個分の広さでもできると思います。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございます。高橋委員から提案がありましたことに関して、事務局から説明があるそうでございます。よろしく願いいたします

じむきょく
(事務局)

テレビゲームというのは、そもそも画面を見ること、音を聞くことを前提に1970年代から作られてきましたので、おっしゃるとおり見ることも聞くことも難しい場合ですと、今ぱっとできるゲームというのを挙げられないのが非常に心苦しいです。

しかし、大変なヒントをおっしゃられていまして、触感ですとか振動ですとか、いわゆるハプティクス、フィードバックという言い方もしますが、実はこれはV R技術、私はともいきメタバースも関わっておりますのでV Rなども詳しいのですが、仮想のものに対して振動だったり触った感覚をフィードバックして伝えるという技術が同時に進歩しています。ですので、これは気を持たせるという意味ではないのですが、必然的に仮想空間で、という言い方をすればよいでしょうか、視覚や聴覚によらないフィードバックによってゲームを体感できるというのはそう遠くないと私は考えております。

ともいきゆうえんちで全盲の方が格闘ゲームをされていて、北村直也選手といますが、私も素人ながらかなり強い気持ちで格闘ゲームの練習をいつもやっているのですが、惨敗しました。直也選手が何をしているかという耳でゲームの機能によって、格闘ゲームですから相手との距離感ですとか、相手が何の技を出しているかですとか、全部耳で判断して戦って勝つということをやってらっしゃいました。

私は、eスポーツは「諦めなくていい(e)スポーツ」というふうに思っています。私は運動が苦手です全然やる気が出ないのですが、ゲームだと、eスポーツの世界であれば人とやり合うこと、競争すること、協力することを諦めなくていい、そういう時代になっていると思いますので、私もeスポーツの業界にたくさん知り合いがおりますので、おっしゃられたお話を伝えたりして、早くそういった隔てなく、皆さんが楽しめるよう努めてまいりたいと思います。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

どうもありがとうございました。奈良崎委員、よろしく願いいたします。

ならざきいん
(奈良崎委員)

奈良崎です。私自身、eスポーツをずっとやっていました。知的障がいの方は、結構ゲーム好きが多いです。それはなぜかというと、スマホでゲームができるようになってから、皆さん課金してしまって、仲間では今スマホのゲームは依存症の人が多いのですが、知的

のスマホの依存症って、私たちが仲間内では、仲間同士で依存症にならないようにちゃんと決めようとお願いをしたいのです。

例えば、メダルゲームとかも一時とても知的同士でバトルになっていて、毎回ゲームセンターに行くたびにメダルを何個とったからこれをお金に替えようとか、あとスマホの料金を払えない人が今うちの会の仲間にいっぱいいて、それでそれを友達に紹介すると、その子の分の通話料金が何%か安くなるんです。それで結構スマホでeスポーツをやっているんです。例えば、それをちゃんと無料なのかとか、どこまでが無料なのか、これを見たらインターネット料金が発生しますとかの制止が欲しい、それをお願いしたいです。以上です。

（内藤部会長）

ありがとうございました。オンラインで榛澤委員が手が挙がっておりますので、榛澤委員、よろしくお願いいたします。

（榛澤委員）

まずeスポーツに関して、相模原市にもeスポーツをやるB型作業所というのがあります。オンラインゲームをやって工賃をもらおうというものです。今までは工賃作業をやる作業所に通えなかった方が、ゲームをやる作業所だったらずっと続けられるとか、精神障がい者の中にはゲームが得意だったり好きだったりする方がいて、障がい者が社会と繋がったり、そういう通所施設に通えるための一つの方法としてすごく有効な手段だと思えます。

あと、eスポーツと関係ないのですが、僕もすごく長く話してしまったりとか、御迷惑をかけたこともあると思うのですが、ベルを鳴らすことについて、正直2分というものは短いですし、なかなかうまくコンパクトにまとめて伝えるのが苦手な方も障がい者の中にはいます。ベルを鳴らすことも当事者目線だと思うのですが、2分でベルを鳴らすのがすごく嫌です、正直。例えば、障害者施策審議会でも長く話す人もいますし、なぜ当事者部会だけベルを鳴らすのか。役所の方も、説明の時は長くなってもしょうがないのですが、答弁の時は2分以上長くなったりします。障がい者がこういうところに来て一生懸命話しているのに、ベルを鳴らしてそれを止めるというのは、妨げるものではないと言いながら、それだったら障害者施策審議会でも鳴らせばいいのにやたら長く話す人もいます。それをなぜ当事者部会では鳴らすのか、正直僕、自分がやられるのも嫌ですが、他の方が一生懸命話しているのに大きな音を鳴らして止めるというのは、僕個人の意見ですがすごく失礼というか、当事者目線だっていつもあれだけ言っているのに、当事者が一生懸命話しているのにあまり長く話してはいけません。今も長く話してしまっ

ごめんなさい。でも嫌^{いや}でした、僕は。ただ、それをやめるかどうかは皆^{みな}さんの意見^{いけん}もあるので、僕は正^{ただ}直^{ちき}すごく嫌^{いや}だなと感じたのですが、いかがでしょうか。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございました。最後^{さいご}の御意見^{ごいけん}はまた検討^{けんとう}させていただくということで。

はんざわいいん
(榛澤委員)

今日^{きょう}はどうするのでしょうか。2分^{ふん}で鳴^ならすのでしょうか。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

それに関^{かん}しては、とりあえずはこの予定^{よてい}でやらせていただいておりますものですから、御承知^{ごしょうち}おきくださいませ。

はんざわいいん
(榛澤委員)

わかりました。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

それ以外^{いがい}の委員^{いいん}の方^{かた}で、このeスポーツ^{えー}に関^{かん}してまだ話^{はな}していないということがございましたらどうぞ。下条^{しもじょう}委員^{いいん}、よろしくお願^{ねが}いいたします。

しもじょういいん
(下条委員)

下条^{しもじょう}です。私自身^{わたしじしん}は、eスポーツ^{えー}って今まで全然^{いまま ぜんぜん}関わ^{かんわ}ってきていないです。ですが、スマホ^{たぶんちよつかんてき}のアプリのパズルゲームはよくやっているんですけど、多分^{たぶん}直感^{ちよくせつ}的にできるゲーム、パネルに直接^{ちよくせつ}タッチする系^{けい}のゲームだったらやれるかなという感じはあります。ただ、画面^{がめん}が小さくないと精神^{せいしん}とかだと薬^{くすり}を飲^のんでいて手^てが震^{ふる}えてしまうことがあって、それであまりに細^{こま}かいところだと触^{さわ}れなかったり、ずれちゃったりすることがあるので、ある程度^{ていど}隙間^{すきま}がある感じのパズルゲームだったらやりやすいなと思います。

あと、タイムトライアル系^{けい}は焦^{あせ}ってしまって、パニックになっ^{けい}てできなくてイライラすることが増^ふえたりするので、隣^{となり}に対戦^{たいせん}相手^{あいて}がいて、対戦^{たいせん}しているのが見える状^み況^{じょうきょう}だと多分^{たぶん}焦^{あせ}ってしまったりイライラするかなと私^{わたし}は思^{おも}います。なので、やっているときに周り^{まわ}にその情報^{じょうほう}が入^{はい}らない、でも終わ^おったときにどっち^かが勝^かったかはわかるというのは面白^{おもしろ}くて良いと思^{おも}うんですけど、やっている最中^{さいちゅう}に相手^{あいて}の情報^{じょうほう}が見^みえて焦^{あせ}って、それで嫌^{いや}な思^{おも}いをしたりとか、言葉^{ことば}がきつくなっ^いてしまったりするのはちょっと嫌^{いや}だなという感じはあります。以上^{いじょう}です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございました。他^{ほか}によろしゅうございますか。では、最初^{さいしょ}の議題^{ぎだい}に関^{かん}しましては、これぐらいにして終^おわりにしたいと思^{おも}います。続^{つづ}きまして次第^{しだい}2の(2)、2つ目^めの議題^{ぎだい}でございますが、「障^{しょう}がい者^{しゃ}当事^{とうじ}者の視^{して}点^{てん}から「働^{はたら}くこと」を考^{かんが}える」につ^つきまして、事務局^{じむきょく}から説^{せつ}明^{めい}をお願^{ねが}いいたします。

じむきょく
(事務局)

しりょう もと せつめい
資料2に基づいて説明。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ただいま事務局^{じむきょく}から、働^{はたら}くことにつ^つきまして説^{せつ}明^{めい}がございまして。各委員^{かくいいん}の方^{かた}、御意見^{ごいけん}がございまして、いかがでございましょうか。はい、猿渡委員^{さるわたりいいん}。

さるわたりいいん
(猿渡委員)

猿渡^{さるわたり}です。働^{はたら}くということが多岐^{たぎ}にわたってしまして、例^{たと}えば精神^{せいしん}を持^もっている僕^{ぼく}らであれば社会^{しゃかい}参加^{さんか}をすることも大^{たい}変^{へん}なことだ。例^{たと}えば相模原^{さがみはら}だと、精神^{せいしん}保健^{ほけん}福祉^{ふくし}センターで「チームオンリーワン」という、B型^{びーがたぎようじょ}作業^{しゅうろうけいぞく}所^{じょ}とか就^い労^{らう}継^{けい}続^つとかそういうところに行^いって精神^{せいしん}障^{しょう}がい^{しょう}の仲間^{なかま}を募^つっていくということと、あと啓^{けい}発^{はつ}活^{かつ}動^{どう}をやっています。もういくつかのところを回^{まわ}って、同^{おな}じ精神^{せいしん}の仲間^{なかま}だけどピアサポ^なートもあつて「そういうこともあるよ」ということを話^{はな}したりします。

あとは昔^{むかし}からいわれてる障^{しょう}がい者^{しゃうんどう}運動^{じぶん}です。自分^{ちいき}たちが地^で域^{しゃかい}に出^かて社会^{しゃかい}を変^かえるとい^いうことが一番^{いちばん}大^{だい}事^じだと思^{おも}っているの、そこもありのお金^{かね}というところだと思^{おも}います。な^なので私^{わたし}たち、高^{たか}野^のさんとかもそうですけども、24時間^{じかん}介^{かい}助^{じょ}を必要^{ひつよう}としている人^{ひと}たちは介^{かい}助^{じょ}者^{しゃ}の人^{ひと}を雇^{はたら}うことと同^{おな}じなのです。そういう雇^こ用^{よう}主^{ぬし}としての働^{はたら}き方^{かた}というのもあると思^{おも}います。支^し援^{えん}者^{しゃ}の人^{ひと}たちも同^{おな}じだと思^{おも}います。なので、そういう働^{はたら}き方^{かた}もあるのかなと思^{おも}っています。以上^{いじょう}です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございました。奈良崎委員^{ならぎきいいん}、よろしくお願^{ねが}いいたします。

ならぎきいいん
(奈良崎委員)

奈良崎^{ならぎき}ですけど、今日^{きょう}は一人^{ひとり}一人^{ひとり}各^{かく}障^{しょう}がい者^{しゃ}がいますので、できたら全^{ぜん}員^{いん}に話^{はな}してもらった方^{ほう}がいいと思^{おも}います。それで「こう思^{おも}います」と言^いっていただいた方^{ほう}がよいと思^{おも}うので

すが、どうでしょうか。奈良崎は後で話します。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

奈良崎委員の方から、委員全員が一言ずつでもいいですから働くことについて意見を述べていただきたいという提案がございました。どうぞございますか。順番はございませんからどなたでもよろしいですけど、言っていただけたらありがたいです。
関委員、よろしくお願いいたします。

せきいいん
(関委員)

関です。よろしくお願いいたします。働くことのもっと大前提に、社会が障がい者に対して偏見があって、まずその偏見をなくしないと仕事に就きにくいといつも思っていて、そこが堂々巡りになったりするんです。なので、いろいろ考えてきたんですけど、まずそこが大前提なのかなと思っています。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございます。尾山委員どうぞ。

おやまいいん
(尾山委員)

ピアサポーターの尾山です。よろしくお願いいたします。精神障がいの立場で申し上げさせていただきますと、働くことの多様化を広めていきたいなと感じています。金額だったり、時間であったり、内容であったり、これによって格差がつかないように、どんな内容でもどんな時間でもどんな金額でも、それは働いているんだという考え方が広がっていくとよいかなのということが1点目です。

2点目は、働くということは権利なんだということで、権利が侵害されている。ですから、就労支援というのは権利を擁護するという考え方が広まっていくことを、私は大変期待しております。そうすれば、権利を行使しないからといって不当な圧力が障がい者自身にかからないことが大変望ましいのではないかと思います。

ゆみやいいん
(弓矢委員)

私は今、実際に働く中で、もちろん賃金を得るためというのも大きいんですけど、やっぱり普段人を頼っていて、人を頼らないと生活できない自分が人の役に立てていることにやりがいを感じています。

ただ、身体障がい者が働くというのは難しいというか、限られていて、就職活動する中でも身の周りのことが一人でできる人という条件になっているところが多い。通勤だ

ったり、お昼休憩だったり、トイレだったり、そういうときには介助者の手があれば働けるのになと思いつつ、諦めることが多かったです。

今、神奈川県内で結構、就労支援特別事業という、仕事に介助者をつけられる制度が始まっているところが多いです。横浜、川崎、相模原で始まっているんですけど、結局それを使うための企業側の理解というのはなかなかないというのは感じています。やっぱり機密保持の観点から、同じ場所での待機が難しいから別室で待機してもらって、何か介助の必要があるときに呼ぶのはOKだけど、べったり横で待機するのは難しいと言われると、それはそれで見守りが成立しなくて制度が使えないという難しさがあって、やっぱり制度が整ってきても企業側の理解がないと難しいなというのはすごい感じています。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございます。次、高橋委員よろしいですか。

たかはしいん
(高橋委員)

高橋です。全盲ろうです。働くことについて、私も現在仕事をしておりません。通訳介助員と一緒に外に出ますけれど、自分だけではなかなか家から出ることができません。例えば会社に入っても、そこに介助員がいないと私だけだと情報が入らないので、情報保障があれば、例えば封筒に入れたりとかできるんです。例えば家の中でのテレワークとか、内職のような仕事、封筒に入れるような内職のような仕事はできると思います。

前にハローワークに行きって聞いたんですが、ほとんど無理と断られました。なぜかというと、盲ろう者は自分一人では歩けないから、情報がないから、コミュニケーションができないからと言われました。それで仕事は無理と断られました。盲ろう者でも、障がいがあってもなくても同じように仕事ができ、できればお給料がもらえるというふうになれば嬉しいと思います。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございます。

たかのいいん
(高野委員)

制度的には、やはり重度訪問介護を使えるようにしてほしいです。また、機会がとても少ないことが問題です。パソコンを使った作業はもちろん、ヘルパーに助けてもらいながら生み出すもの、例えば詩やエッセイみたいなものも働く機会と捉えて、機会を作してほしいなと思います。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございました。オンラインでございますけど、多賀谷委員、よろしく願い
いたします。

たがやいいん
(多賀谷委員)

多賀谷です。よろしくお願いします。働くことについて、いろいろな考え方を持って
いる方もいらっしゃると思います。例えば男性の場合、会社で正規職員になれる人もいま
す。でも、女性の場合は家庭があるので、例えばアルバイトやパート、昼間2時間とか3
時間、1週間に2～3回ということで、結局断られることも多いです。

コミュニケーションでいろいろずれがあったり、スムーズに取ることができないという
ことがあります。いつも手話通訳がそこにいるということはないので、会社での理解を受
けることが少ないです。限度もあります。それをちょっとでも、障がい者への理解、どこ
の会社でも理解をしていただいて権利があるということ、わかっていただけたらと思いま
す。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございました。引き続きオンラインの方で榛澤委員、お願いいたします。

はんざわいいん
(榛澤委員)

なるべくコンパクトにまとめようと思いますが、もし2分超えたらごめんなさい。まず、
いただいた資料の2つ目の「働くに当たって困っていること」という項目の1つ目の意見
を読ませていただいて感じたんですけども、「職場で、『なぜ障がい者と一緒に働くのか。
障がい者は障がい者のところで働いた方がいいんじゃないか』と言われたことがある」
という意見を読んで、すごく不快でした。この発言をした方の本音というのは、「僕は障
がい者と一緒に働きたくない」と、「自分の職場には障がい者はいてほしくない」という
ことを直接言うと角が立つからこういう言い方をしたと思います。私も精神障がい者で
すけども、一緒に働いてみて感じたことは、すべての健常者ではないんですけども、職場
で障がい者が僕一人、精神障がい者が一人だとすると、やっぱり健常者の中には障が
い者にいてほしくない、特に精神障がい者とは一緒に働きたくないという方が少なくあ
りません。精神障がい者と関わることは確かに難しいです。被害妄想があったり、マイ
ナス思考だったり、調子に波があって休みが多かったり、攻撃的になってしまう人もいま
す。やっぱり働くのは、より気を遣わなければならないから面倒くさいというのは事実な
ので、その気持ちはわからなくはないです。

ただ、私たち精神障がい者の立場としては、やっぱり社会に出て働くということが、

わたし いまはたら ほんとう はたら ころ かん じゅうじつかん
私も今働かせていただいている、本当に働いていなかった頃には感じられない充実感
ですとか、働 く 喜びとか、少しは自信を持てるようになって良いことだとは思っています。
けれども、じゃあどうしたらみんなに受け入れてもらえるかというときに、その答えが僕に
はまだわかりません。ただ、障害者雇用率をいくらあげても、精神障がい者を対象にし
ても、差別解消法をどんなに改正して就 職 において精神障がい者を差別しないように
と言っても、結局綺麗事や建前論であって根本的な解決にはならないと思っています。僕
も答えがわからないのですけども、どうしたら障がい者が本当の意味で差別されない、
排除されないためにはどうしたらいいか考えていきたいと思っています。以上です。

なとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございます。次、奈良崎委員、お願いいたします。

ならざきいいん
(奈良崎委員)

ならざきいいん わたし ちてきしょう ほんとう いや かいしゃ しょう しゃこよう
奈良崎委員です。私は知的障がいなんですけど、本当に嫌なのが、会社で「障がい者雇用
で雇って」と社長にお願いをしているのですが、私は相変わらずアルバイトでずっと一緒
なのです。その時に補償がないので、例えば有休もない。それと、うちは親の介護をしない
といけけないので、介護手当や休みが欲しいと最近思いながら働いています。

それで、私 がありがたいと思うのは、昨日もうちのリーダーに平気で堂々と「奈良崎さ
ん、これやっという。僕は他のところ行くから。電話も置いておくから。」と言われて、そ
うやって自分として認めてもらっていることがいっぱいあるのでありがたいと思うのです
が、最近結構プレッシャーを感じて辛いなというのがあります。以上です。

なとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございます。次、小山委員、よろしくお願いします。

こやまいいん
(小山委員)

よこす かほんにんかい こやま しょう しゃ じぶん しごと つ
横須賀本人会の小山です。なかなか障がい者は自分の仕事というのには就けないです。
面接になると、知的障がい者ならOKなんだけれども、てんかんだと発作で対応ができな
いと言われるのです。面接で、例えば横浜で大きな面接会があると、「知的障がい者ならOK
なのだけれど、てんかんだとうちの会社では対応できません」と言われて、「全般発作で一番
重いやつです」と言う「救急車を呼ばれるのは困る」と言われて、そういう断り方を
されるのです。

面接ではそういうことがあって、そして作業所に入るとずっとアルバイトかパートでず
っと一生働けと。そして、後から来た人がどんだんだんだんだ社員とか上司になるという

形で、障がい者で社員という人はなかなかいません。それっておかしいのではないかな
と思うのです。何で私たちだけパートやアルバイトという扱いになっているのか。障がい
者で社員って、確率的には1000人に1人ぐらいだと思います。それぐらいの確率だと思
います。だから、学歴のある人たちがばかにするというのはその点なのです。

あと、今は横須賀に住んでいて、川崎とか横浜とか遠くのところに行かなきゃいけない。
それで通えなくなると近くのB型作業所と決められているから、家の近くで働くって
100%ないです。そういった状況もあるし、あと働く場所の確保、理解をしようという
のは難しい。だから、もっと障がい者の社員を増やしてほしい。ちゃんと健常者以上に
働いている人もいます。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

では小西委員、よろしくお願いします。

こにししいん
(小西委員)

ピープルファースト横浜の小西です。それをいうと私もてんかんです。私は非職員で
す。私の中で思っているのは、障がい者の中でも家から出る人は完全に働けます。それ
で、うちも知的障がいの重い人を預かっています。だけど、B型作業所になると給料が
全然ありません。そこを何とかしてほしいです。本当のことを言えば、皆がどうしたら楽
しく働けるのかというのわかりません。皆の心なんか読めません。私は神様ではあ
りません。よろしくお願いします。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございました。じゃあ次、下条委員よろしくお願いします。

しもじょういん
(下条委員)

下条です。私自身、A型作業所で働いていたことがあるのですが、それまでに
仕事らしい仕事をちゃんとしていなかったということもありまして、実際に働いてみない
と働くという感覚自体がわからないというのをすごく実感しました。

私自身、長期に渡って仕事をするということがなかったのも、自分ではできると思っ
ていました。でも、フルで1日働くことが、実際に働いてみたら無理だということがやっ
てみてわかったんです。それ自体を試してみないと、どういうものなのかがわからない。
例えば1週間とかのお試しだとしたら絶対にわからなかった、例えば通勤時間が長くなっ
てしまったときに通勤ができなくなってしまう、具合が悪くなってしまうこれは無理だ
とか。あと、1日働いてみた疲労感が1週間ではわからなかったものが、1ヶ月とか2

ヶ月とか長期に渡ったときに疲労のたまり具合が全然 考 えていたものと違って、そのあとの影 響がひどくて仕事ができなくなってしまったとか、実際にやってみないとわからないことが多いです。

なので、お試して仕事を、ある程度期間を区切って仕事をやってみたいと私 は 考 え ました。そうしないと、会社に就 労した後にここまで 働 いたのにそこで無理だとわかったときに、じゃあ辞めるということになってしまうのです。できないから、そこで切れてしまうのです。それが、お試しである程度の期間行ってやってみて、それで無理だったら 諦 めるということもできるし、これ以上の仕事をするにはどうしたらいいかという見直しもできるような感じがしていて、そういう企業ごとのお試し期間というのが欲しいなと思いました。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございました。猿 渡 委員、よろしく願います。

さるわたりいいん
(猿 渡 委員)

皆さんがおっしゃられた、僕もそうですけれども重度訪問介護ですね。埼玉とかちゃんと導 入している自治体もありますが、職場介助だとやっぱり 短 かったりもします。

例えば県の仕事だったら、会計年度任用職 員とか、任期付職 員とか、臨時採用とか、再雇用とか、短時間雇用とかあると思います。また、例えばともしび喫茶みたいなところとか、視覚とか聴 覚とかそういう方が 働 いているお店もあるのですが、やっぱり数が少ないと思うのです。なので、県 庁で仕事するのは 難 しいと思うので、ともしび喫茶やともしびショップがもうちょっと増えたりとか、あとはオリヒメ、今はなくなりましたが、インターネットを使って雇用する場を作る。

あと、チャレンジ雇用に関してはやっているところもあると思うのですが、僕が以前 働 いていた会社で一番ひどかったのは、自分がけがなどした時、親に対して「何かあったら責任とれるか」と言われたことがあります。そういうことが障 がいを持っている方にはあります。僕らは特にそうです。生死に関わる、そういうことがあるので、やっぱりちゃんとした個人として見てほしいということと、社会が理解をするというよりは社会を変えていかなければいけないというところをどうすればいいかというのは、もうちょっと企業側や県と当事者で話し合えたらいいのではないかと思います。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございました。皆さん、御意見いただきましてありがとうございます。最後 に内藤の方から、私 が 考 えている 働 くことを話 させていただきます。

わたし いま ていねん せいしやいん はたら はたら しゃかい
私は今まで、定年まで正社員で働いておりましたものですから、働くとは社会との
かんけい も つづ いちばん はたら かんが いま
関係を持ち続けることができるのが一番、働くことではないかなと考えております。今
はじちかいとうとう かお だ
は自治会等々、そういうところにも顔を出させていただいて、いろいろやらせていただい
ているのですが、なかなか定年になって外へ出なくなりますと自分の殻に閉じこもって
しまいます。それがいわゆる社会との関係だったり、いろいろ他の人と関係を持つことが
いちばん ほんらい きゅうりよう いちばん ほか ひと かんけい も
一番、本来は給料をもらえたら一番よろしいのしょうけど、給料はちょっと置いと
いてでもその関係が持てるようなことができるのが、一番働くことではないのかなと私
はおも
は思っているところでございます。

ちょっと余計なことを言いましたけど、よろしゅうございますか。そうしましたらこの
はたら
働くことにつきまして、これで終わりにしたいと思います。時間が今、14時45分になりま
したので、14時55分に再開したいと思います。皆さん、よろしくお願いいたします。

ふんかん きゅうけい
～10分間の休憩～

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

14時55分になりましたので、再開したいと思います。続きまして、報告事項でございま
す。報告事項は、2件続けて説明していただきました後に、まとめて質疑の時間をとりたい
と思いますので、よろしくお願いいたします。それでは次第2(3)「グループホームや施設
で生活する方のためのノートについて」、(4)「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条
例～ともに生きる社会を目指して～の見直し」につきまして、事務局の方から説明をお願い
いたします。

じむきょく
(事務局)

ほうこくしりよう ほうこくしりよう もと せつめい
報告資料1、報告資料2に基づいて説明

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございました。ただいま事務局の方から、報告事項につきまして説明がござ
いました。報告資料1と2、どちらでも構いません。御質問のある方はお願いいたします。
さるわたりいいん ねが
猿渡委員、よろしくお願います。

さるわたりいいん
(猿渡委員)

報告資料1なのですが、さっきも小西さんとかとも話したのですが、確かに絵で描か
れるとわかりやすいです。奈良崎さんの絵もすごくいいなと思っているのですが、そ
はんたい
の反対の1ページのところです。確かに、「虐待かもしれません」とか「嫌だな」とか「や

めてほしいな」とか「やめて」というのはわかります。だけど、その「やめて」とか「嫌な」ということが微妙だったり、障害者虐待防止法という法律はもうちょっと簡単に「こういう法律です」と書いて、じゃあ虐待防止法は基本的に市町村の障害福祉課が担当したり、社協が担当しているということがあるので、そういうことも明記していただきたいと思います。

あと、「嫌なことがあったときに相談できる人を書きましょう」と書いてありますが、相談できる人がいない人もいます。あと、成年後見人のところに社協がやっている日常生活支援事業、金銭管理とかそっちの方も入れていただけると一番わかりやすいのと、もう少し「困ったときの連絡先」というところを改善していただいて、例えば民生委員さんとかに関わりのある方もいるかもしれないし、生活保護の担当者の方もいるかもしれないので、一番身近に相談にできる人が誰かということを書けるとわかりやすいです。

確かにここの中に、この中に書いていることはわかりやすいんですが、もうちょっと例を挙げてもらえるとすんなりくるのではないかな。ネグレクトとかそういうのはわかると思うんですけど、「お金を渡してくれない」というのはどういうことかとか、そういうところが難しいと思うんです。

なので、もうちょっと皆さんがわかりやすいような書き方ができるといいし、これをこの皆さんから発信していただいた方がよい気がします。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございます。下条委員、よろしくお願いいたします。

しもじょういいん
(下条委員)

下条です。報告資料1の「困った時の連絡先」のところなんですけれども、人権センターが入っていないです。そちらを入れていただきたいのと、連絡先に電話をかけたりしたときに、今自分がどこにいるのか、自分が何を伝えるべきなのかを書いておかないと、自分の思考が停止してしまっている状態の人にとって、それをその場で考えて言うというのはとても難しいと思うんです。なので、自分の名前とか自分の今いる場所とか、何をされていて自分はどうしたらいいのかとか、そういうことを先に書いておく場所が欲しいと思います。その場で何を伝えればいいのかとか、聞かれたことに対して考えなくてもそのまま答えられるようなものがあると、直接伝えやすいし、もっと使えるものになるのではないかと思います。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございます。非常に当事者の声、万が一になったときの、ということでお

はなし 話していただいたと思います。非常に有意義な御意見だったと思います。次、オンライン
ほう はんざわいいん て あ の方で榛澤委員、手が挙がっていることをございます。よろしくおねがいます。

はんざわいいん
(榛澤委員)

やっぱりベルはやめないんですね。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

きょう かん 今日に関してはもうこれでいきますと先ほどお話ししましたので、それはもう承知してく
ださいませ。

はんざわいいん
(榛澤委員)

たし おな ひと はな つづ 確かに同じ人がずっと話し続けるのはよいことではないです。それだと話せなくなるの
で。ただ2分はちょっと短いかなって、他の人の発言を聞いてみて、皆さんやっぱり長く
してはいけないとすごく萎縮して、十分に言いきれていない気がします。例えば5分とか、
それ以上だとちょっと長いですが、ちょっと2分は短いかなと思いました。

それで、僕がこの報告資料1を見て思ったことは、役所の方たちは虐待してないのです
か。ここに、「職員が、あなたにとっていやなことをしていたらそれは虐待かもしれません」、
「もし、「いやだな」「やめてほしいな」とおもったら「やめて」と言っているのです」
と書いてあります。今の会議で皆さんが少し委縮して遠慮して、まともに話しかけてない
というのも心理的虐待にはならないのでしょうか。虐待って、やっている方は気付かな
いけど、他の人がベルを鳴らされているのがすごく不快です。それは心理的虐待、これは
相手のためとか、ルールを守るためにという感じで正義はあるのでしょうか、やっぱり
相手の立場とか気持ちとかも考えるべきで、他の人で別にベルを鳴らされて何とも思っ
ていない方もいると思うので、僕だけが正しいというわけではないのですが、考えてほし
いと思います。

ぼく いま やくしょ かた かか 僕も今まで役所の方と関わってきて、正直嫌だなと思うこともありました。そして、も
ちろん皆さん一生懸命やっている、忙しい中やっているので、やっぱり当事者目線
とか虐待防止と言っている以上は、まず自分たちが障がい者と関わっているときに本当
に相手に虐待をしていないかどうかということを、もう一回よく考えていただければと
思いました。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

つぎ ならぎきいいん ねが ありがとうございます。次に奈良崎委員、よろしくおねがいたします。

ならざきいいん
(奈良崎委員)

奈良崎です。まず報告資料1について、後ろの「困ったときの連絡先」というのを一緒に誰か書いてくれる人がいるのかなと思いました。例えば知的の場合とかうちの仲間もそうなのですが、これを一人で書くって結構大変です。神奈川県って「一緒」という言葉が好きじゃないですか。「共生」とか「ともに生きる」とかそういうタイトルをよく使うので、そこを使ってもよかったのかなと思いました。

あと、先ほど猿渡さんがいろんな情報を載せてほしいと言いましたが、知的障がいはいは逆に載せすぎると読みにくいので、例えば情報として小さい写真で「インターネットでも見られますよ」とか、そういう工夫をされるとよいと思います。情報っていっぱい載せられてしまうと知的の人は余計にわかりにくいので、そこは工夫されてもよいのかなと思いました。

それともう1つ、当事者目線の障害福祉推進条例の見直し、ありがとうございました。私が気になったのは、条例が始まった後のこれからの課題って、多分盲ろう者だけではないじゃないですか。例えば今回は盲ろう者の人について載せるけど、多分この先各障がい者の人も、自分の障がい情報が欲しいというときに載せてもらえると嬉しいなというのがあります。それはどうしてかという、私ピープルファースト大会のことを全然知らなくて、応募した時点でもう終わっていたということがありました。そういう意味で各障がい者も、ちょっとその情報の場所に入れてもらえると、この条例が役に立つのかなと思いました。お願いしたいです。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございました。時間が押しているものですから、関委員で最後にしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

せきいいん
(関委員)

関です。下条さんが言っていたことの追加的な感じなんですが、今どんなことで困っているか、2ページ目の絵を見て「虐待とはこんな感じですよ」とあって、後ろを見て「困った時の連絡先」があって、どこに電話すればいいのかというのがそもそもわかるのかなと思ったので、「ここに連絡してね」みたいな総合窓口的なものがあると振り分けがしやすいと思います。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございました。よろしゅうございますでしょうか。本日の会議の内容につきましては、次回の障害者施策審議会でも報告させていただきます。それでは、進行を事務局

へお返しさせていただきます。よろしく願いいたします。

(事務局)

内藤部会長、皆様、本当にありがとうございました。本日の議題と報告事項は以上ですが、本日の会議を持ちまして第1期が終了となります。そこで次第の3、この第1期の振り返りとしたしまして、この会議の立ち上げから携わっていただきました皆様から一言ずつ頂戴いただければと思います。私からの指名で恐縮なんですけども、尾山委員から順番にマイクを回させていただきますので、一言ずつコメントをいただければと思います。尾山委員、よろしく願いいたします。

(尾山委員)

精神障がい者の尾山です。第1期の振り返りにつきまして、2点申し上げさせていただきます。1点目は、精神障がい者の立場で発言できる機会が得られたことを感謝しております。2点目は、県が盲ろう者に関する検討を行うということは、高橋委員の発言の大きな成果だと思っています。この2点により、私、大満足ということで、振り返りさせていただきました。以上です。

(高橋委員)

ありがとうございます。

(関委員)

関です。2年間、毎回たくさんの課題を考える機会をいただいたおかげで、自分を大きく成長させてもらえたと感じております。違う障がいの方たちとこの部会で話し合えたことは、私の財産になりました。勉強になりました。考える力をつけさせてもらいました。

自分がピアサポーターとして一番大切にしたいのは、当事者一人一人に真摯に寄り添うことで、それは2年前と何ら変わりはありません。ばく然としていたことが、より明白な物になったことを確信しています。

今後の部会についても、より活発な意見を促進するため、ベースとして障がい別に話し合うことが必要ではないかと思っています。どんなことを決めるにも時間がかかっている、それは必要な時間だとは思いますが、その間も困っている人はたくさんいると思うので、時間的なことも考えてほしいです。

最後に、皆さんこの2年間、お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。終わってしまうのが寂しいですが、またどこかでお会いできることを願っています。

しもじょういいん
(下条委員)

下条です。皆様、お疲れ様でした。2年間という期間がすごく短かったような気がしております。当事者オンリーでこの会議が始まった当初、本当にこれでまとまるのかと思っていたのですが、2年経って一区切りということで、皆さんの意見を聞くということをして一人一人ができるようになったのが本当にすごいなと思っていて、部長さんがすごくまわしてくださっていて、本当にありがたいと思いました。

この会議って3障がい、精神、身体、知的、その上に盲ろう者の方もいて、普段私たちの会議というのは、同じ障がいの人たちが集まる会議が多いのですが、他の障がいの人たちとお話をするとか、同じことを考えるということが少ないので、部会があることですごく私は良かったと思っています。自分で積極的にいかないと聞けない情報とか、私たちが普段の生活では知らない情報とか、その苦労とかを私たち本人が知らないで、実際の苦労とか声を聞かない限りわからないところも結構ありまして、そういうのが聞ける機会というのが本当に良かったと思うので、これからもまたこういう機会を作っていただきたいと思います。

こにしいいん
(小西委員)

小西です。ありがとうございました。今日ここには、障がいを超えようとする人たちがいます。皆さん、本当につらいと思います。どのグループも、障がいを抱えています。我々も障がい者です。皆でまた2期のときもいろんな話をしましょう。ありがとうございました。

こやまいん
(小山委員)

小山登です。お疲れさまです。いろいろな立場でお話をしたというのが良かったと思います。またぜひお願いします。

ならぎきいいん
(奈良崎委員)

奈良崎です。皆さん、お疲れ様でした。2年間でいっぱい頭を整理しながら皆すごいなと、内藤さんすごいなと思って毎回毎回思っていました。

あと、やっぱり一個一個会議の課題が多い。できたらもうちょっとコンパクトで少人数でやりたいと思います。それが今度この先未来の神奈川県にお願いしたいことです。それと、毎回本当に神奈川県職員さんが必死に説明していたり、あと中身を本当にわかりやすくしてくれるのだけど、非常に資料が多すぎて、そこも改革してもらいたいのかなとおもっています。

毎回遅刻したりして、すごく皆さんに迷惑かけてるなと思っていて、来年チャンスがあ
ってまた呼んでもらっても同じこと繰り返すんだろうなと思っています。ぜひ、できたら
今度はおいしい飲み物とおいしいおやつがあったら 幸せになるとおもいます。よろしくお願
いします。

たかのいいん (高野委員)

高野です。2年間この部会に参加させていただいてありがとうございました。このよう
な県の取組に参加できて、少しでも県の施策に貢献できたのが嬉しくおもいます。かなりカ
オスな場で、自由な発言が相次いだことも印象に残っています。委員の皆さんがさまざま
な障がい当事者の立場での御意見をお持ちなのだと、毎回お話を伺いするのを楽し
みにしておりました。

一つ残念だったことは、このとおり自分では喋れないので、ちょっとお喋りして仲良
くなることができなかったことです。最後になりますが、内藤部長には、この2年、こ
のような状況をとりまとめていただき、ありがとうございました。県庁の皆さんも、事前
事後の連絡や議論の施策への反映など、ありがとうございました。以上です。

さるわりいいん (猿渡委員)

猿渡です。この2年間、本当に内藤さんをはじめ、県庁の職員や他の方々、もちろん
僕ら委員、本当にお疲れ様でした。この中での課題というのは、最初はアイスブレイクの
ような形で1個作って、そのあとは会をそれぞれ、例えば3障がい、内部障がいとかい
ろいろあるので、ワーキングとかでもいいんですけど何回か設けてその中で少し話をして
伝えるということができたらいいいのかなというのと、もしまた来年、次回入れるとしたら、
神奈川県総合計画審議会とかも入っているんで、PDCAサイクルという計画を立てて
実行するという、さっきの条例の5年のところなんかもそうなのですけども、そのPD
CAサイクルの結果、この1回目でやった神奈川県が初めてやったこの当事者部会の結果
を2期にちゃんと伝えられるような、今日はそういう回になったのではないかと思ひます。

職員の方々には夜遅くまで働いて、いつも21時とかにメールを送っても電話をかけても
出るぐらいお忙しくて、本当に資料もぎりぎり、よくくえびこに来ていただいて、いろ
んな場所に僕の体調が悪かったら来ていただいたりする。そういう配慮がすごくできてい
る県なので僕はすごく好きなのですが、次回はもう少し多くの方と、時間の制約と
いうのはあるのでもう少し長く、あとはいつも顔ぶれが一緒になるのはそれはそれで仕方
ないのですが、次世代を育成するために新しい方も入れていただいて、その中ででき
ればいいのではないかと思ひました。本当に皆さんお疲れ様でした。

たかはしいん
(高橋委員)

高橋です。2年間、いろいろと、黒岩知事、首藤副知事、職員の皆様、お世話になりました。ありがとうございました。お疲れさまでした。盲ろう者として、今まで一応国の方にもいろいろ要望してもなかなか成功できませんでしたが、今回黒岩知事の答弁を聞いて成果があったと思います。それから、ぜひ定義についても載せていただきたいと思います。と思っています。

来年も私が参加するかどうかわかりませんが、皆さんとまた顔をあわせて会議が進められればと思っています。いろいろとありがとうございました。

ゆみやいいん
(弓矢委員)

弓矢です。まず皆さん、2年間ありがとうございました。私はこの会議に参加させていただくのが初めてだったので、戸惑うことが多くて全然発言できなかったという反省点が残っているんですけど、後半は内藤部会長に指名していただけてありがたかったです。普段は身体障がいを持つ方と関わることが多いのですが、自分と違う障がい者の方々とお話する機会というのはすごく少なくて、抱えている課題が全然違って悩まれているんだなということを知ることができましたし、すべての人が生活しやすい環境を作るってすごい難しいんだなということを痛感しました。

またこういう場に参加させていただく機会があれば、より良い環境を作っていけるように私も意見を言っていきたいなと思いました。ありがとうございました。

じむきょく
(事務局)

それでは、オンラインから榛澤委員お願いします。

はんざわいいん
(榛澤委員)

2年間大変お世話になりました。参加させていただいて、決して自分の意見が障がい者の代表というわけではないんですけども、やっぱりこういうところに行行政とか社会へ声を出せない人の代わりに伝えなきゃという思いも、自分の独りよがりかもしれないけど、そういう使命感があって話してきたつもりです。ただ、言い方がきつかったりとか、画面に顔を出せないのは本当に無礼だったと思うので、そこは本当に謝ります。

最後に、どうしても当事者目線という言葉は僕は違和感があって、今まで当事者の目線に立たず、非常に支援者目線でやってきたからこそこういう言葉が出てきてやっているのでしょうけど、どうしても当事者目線ではなくていわゆる役所目線で考えた当事者目線みたいな感じてしまうことがあって、もちろん当事者目線という言葉がいけない、使うなとは言いませんけど、ただ当事者の目線というのはわかったつもりというか、少しわかっ

たことによって、中途半端にわかったことによってわかったように思わないでほしいと思います。2年間本当にお世話になりました。本当にありがとうございました。以上です。

(事務局)

それではオンラインから多賀谷委員お願いします。

(多賀谷委員)

多賀谷です。2年間振り返ってみますと、ほとんどZoomで参加をしたことが多かったのだと思います。家庭もありますけれども、もし来期御依頼がありました場合には、現場というか会議の場所に伺って、皆さんのお顔を拝見して意見を交換したいと思っており、今日まで2年間いろいろ話を聞いて、意見を聞いて、いろいろ悩み、苦しいことが立場立場によって違っていると、そういった意見を聞かせていただきましてありがとうございました。以上です。

(事務局)

最後に内藤部会長、よろしくお願いいたします。

(内藤部会長)

2年間大変お世話になりました。ありがとうございます。司会がうまくできなくて、皆さんから御意見をいただけたかどうか、非常に心配しております。でも、いろいろな当事者からの意見をいただくことができましたこと、大変ありがたいと思っております。ぜひ、こういう機会を今後とも作っていただけたらありがたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(事務局)

皆さん本当に大変ありがとうございました。こうした大変貴重な意見をしっかりと受けとめて、今後も障害当事者部会、続けてまいりたいと思います。

なお、本日、会議の中で榛澤委員から2分間のベルのお話をいただきました。これは限られた時間でなるべく多くの皆さんに御発言いただきたいという目的で導入したものでございますけれども、皆さん本当にコンパクトにまとめて発言をいただきまして、長くなる人はもうほとんどいなかったのかなというような印象を持っております。

今後の取り扱いについては、また委員の皆さんの意見も聞きながら検討していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【事務局による運営】

- ・ 首藤副知事挨拶
- ・ 事務連絡